

国際ロータリー第2770地区  
第11グループ

Rotary 

川口 RC  
Weekly Report

No. 29

●オンライン特別号

第3回

2020年5月21日配布

●事務局

〒332-0012 川口市本町 1-18-5 NTT ビル 1F  
TEL 048-222-0124 FAX 048-222-0118  
<http://www.kawaguchi-rc.com>  
E-mail [krc2770@plum.plala.or.jp](mailto:krc2770@plum.plala.or.jp)



2019-20 年度  
会長：渡部 行光  
幹事：平田 修一

## メッセージ

緊急事態宣言が延長され、この東京を中心とした首都圏では、まだまだ警戒が続いています。この新型コロナウイルスは我々には目視できないので、感染者数とか死亡者数とかの情報によってその存在を想像するしかありません。その目に見えない恐怖が人によってさまざまな受け止め方があって、そのさまざまな受け止め方がある意味滑稽でもあります。企業のテレワークは一挙に進み、テレビ中継などの出演者同士の距離とか、ステイホームで食事の宅配が進んだり、一体「新しい日常」とはどうなるのか、違和感のある景色が想像できます。

政府や自治体は、給付金や助成金、無担保無利子融資など、大規模な経済支援を進め、雇用や景気を支えようとしています。さらに生活支援で一人一律10万円の給付金を支払うという、今までにない大きな刺激策を講じています。

一方で医療崩壊を防ぐための、検査機能の拡充や治療薬やワクチンの開発等への投資を進めています。コロナ対策のうちこの医療体制の整備は喫緊の課題であると思います。今回のことで日本の感染症に対する医療面での対応は脆弱なのではないかと少し不安になりました。ただ、そのような医療制度の中で、現場の医師、看護師さんなどの苦労は本当に大変だと思います。

このコロナに対する社会の対応は正常なのかどうか少し疑問も生じます。これからの経済的影響は計り知れないほどの危機に陥るような感じがします。これだけ財政規律を超えた対策が必要だったか、と。世界の爆発的感染を経た国々と、この日本のなだらかな感染度合いとは状況は違いますが、まさにこのウイルスの不明さにどう感じていいのかわかりません。日本は比較的健康的志向も高く感染症に対する各人の注意力も功を奏したのだろうか。日本は運がよかったのでしょうか。ともかくミクロの病理現象がマクロの社会現象を動かしているということです。

さて、ロータリークラブも新しい在り方があるのでしょうか。例会をオンライン例会として、参加できる機会や手段を広げ、より幅の広い人々が参加できるようになるのでしょうか。それは一定の階層や価値観の集団である結社性をより薄めてゆくことになるのでしょうか。それがロータリーにとっていいことかどうかはわかりません。ただ、少なからずロータリーの歴史に大きな変化をもたらすことになるでしょう。考えてみれば、もうすでにそのような変化は相当進んでいて、ある意味ロータリーの中に正常な違和感として存在していたと思います。

今は、これからコロナ後の初めての例会をいつどのように開催するかです。今までのような会食形式の例会は当面はできないかもしれません。でも、やはり私たちは、同じ場所で同じ時間に顔を合わせて、互いに健康であることを確認したいと思います。今年度も6月まで、そして新しい年度もすぐ始まります。このコロナの体験を、まだまだ続くコロナ対策を聞きたいと思います。メンバーの皆様の様々な知恵が今後のロータリー活動の方向性を作っていくと思います。

渡部 行光